

笠幡白鬚神社本殿

ことし一月二十八日付けで市の文化財に指定された本殿は、小型の一間社流造で、覆屋の板床上に据えられています。板葺の屋根に千鳥破風・軒唐破風を付けていますが、当初から覆屋内にあったと思われ、屋根は雨を受けるところを考えて造られています。

本体部分である身舎は、台輪上に尾垂木付きの三手先を組んで、妻の大虹梁を大きく持ち出しています。大虹梁の絵様は、渦と波頭を浮き彫りし、大虹梁と二重虹梁の上には竜と花鳥の彫り物を飾るなどしています。建物を彫り物で埋め尽くし、迫力ある印象となっています。

背面の板壁は唐獅子と牡丹、左側面は巨霊人と思われる老人と虎、右側壁は琴を弾く玉卮と竜です。また、左脇障子は亀に乗る黄安仙人、右脇障子は鯉に乗る琴高仙人が彫られ、中国の物語などが主題となっています。



笠幡白鬚神社本殿

庇の柱には昇り竜、降り竜が彫られ、中備にも眼光するどい竜がにらみをかせています。造営年代は、記録によると安政二年（一八五五）です。建築および彫刻の質が高く、江戸彫を多用した本殿の事例として貴重な遺構です。



納税をお忘れなく

年度が変わります、平成20年度の市税は忘れずに納めましょう。
問い合わせ…収税課収税管理担当・
TEL224-5686▶国民健康保険課
国保収納担当・TEL224-5837

どんぐり

編集後記

別れと出会いが交差する春。学校では、卒業式と入学式が行われ、一方職場では、退職する方・入社する方・新しい職場に移る方がいます。当事者でなくても寂しさと喜び、不安と期待を心の中にもたらずそんな季節ではないでしょうか。希望を胸に大きくはばたく皆さんへ、心からエールを送りたいと思います▶最近、若い時には気にならなかった文字が、見つらなくなってきました。やせがまんも限界なのか。老眼を意識するきょうこのごろです (K I)

世界の国から、こんにちは！



ニュージーランド／小川エリナさん

パーマストン・ノースで育ちました。この町は北島にあり、交通の要で、大学・企業などが数多くあります。父は、日本企業と共同で羊毛製品の開発をしていたため、よく日本の話をしていました。高校生の時、日本に初めて来て、どこまでも市街地が続いていることに驚きました。

川越には、2年前から住んでいます。市民の皆さんは、蔵造りの町並みなど古い文化を守っていて、すごいと思います。川越の文化を大切にしながら、住み続けていきたいと思っています。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは17ページ、相談は27ページをご覧ください。

国際交流課・TEL224-5506